・たるみ歯科クリニックの 6 つのこだわり

① 滅菌レベル

～安全で、安心できる歯科医療を目指して～

ひとりひとりの方に、安全で安心な歯科医療を提供していくには、科学的根拠に基づいた滅菌システムが必要不可欠です。当院では、“すべての人々の血液や唾液は、感染の有無にかかわらず、感染性があるものとして取り扱う”スタンダードプリコーションの概念に基づき、感染対策を行っております。

使用した器具はスポルディングの分類に沿って、以下のように、滅菌可能なものは高圧蒸気滅菌、不可能なものは廃棄または高水準消毒や清拭しています。

器具の分類	内容	器具の例	高圧蒸気滅菌可能な器具	高圧蒸気滅菌不可能な器具
クリティカル器具	組織・血管系に挿入	外科器具・注射針・根管治療用器具	高圧蒸気滅菌	廃棄
セミクリティカル器具	粘膜に接触	ミラー・ピンセットなどの診療器具	高圧蒸気滅菌	ガス滅菌または廃棄
ノンクリティカル器具	皮膚に接触	診療用チェアー・エプロンなど	高圧蒸気滅菌	清拭または廃棄

滅菌では確実な洗浄を行うことが基本です。当院ではミーレ社のジェットウォッシャー（自動洗浄機）を導入し、専属スタッフが自動洗浄→滅菌パック包装→高圧蒸気滅菌という手順で、常に清潔な状態で器具を管理しています。

もちろん治療用ハンドピースをはじめとする口腔内に入る切削器材も、患者さん毎に交換し、高圧蒸気滅菌を行っています。

私たちは、高圧蒸気滅菌器 3 台、ホルマリンガス滅菌器 1 台をフルに活用し、滅菌レベルにこだわっております。

② 親切で丁寧な対応・分かりやすい説明

当院ではヒューマンスキルを向上させるため、月に 1 回外部講師を招いて接遇セミナーを行うなど、全員が積極的に学んでおります。うわべだけのおもてなしではなく、真のホスピタリティを理解し、社会人としてのマナーを身に付けることは、来院される方々への安心感・信頼感につながると思います。

我々は、病院にありがちなマニュアル通りの対応ではなく、親切・丁寧で、その方に合わせた応対を意識するとともに、品格ある歯科医院作りを目指しています。

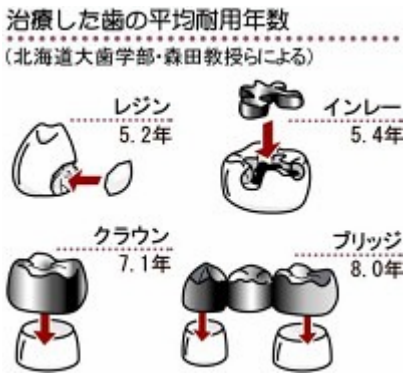
また当院では、患者さんのお口の中をデジタルレントゲンやデジタルカメラで撮影し、チェアサイドのモニター治療方針を詳しく説明しています。患者さんが自分のお口の中をイメージしやすいよう、模型や説明用コンピュータソフトも数多く揃えおり、分かりやすい説明を心がけております。

③ 永続性の高い治療

～精度が高く、長持ちする歯科治療～

歯に穴があいたり、歯を抜いてしまった場合、その部分は再生しないので、人工材料を詰めたり被せたりする治療が必要になります。

森田先生（現・岡大教授）によると、削る・詰める・被せるといった歯科治療（Drill-Fill-Bill Dentistry）の耐用年数は 5～10 年と報告されています。



削って詰めて→何年か後に、また削って被せ→さらに何年後かに抜いて→隣の歯も抜いて…という“やり直し治療”が繰り返されると、自分の歯がどんどんなくなっていきます。この、負のスパイラル（=再治療スパイラル）を、我々は何としてでも防がなければなりません。

大切なのは、削る範囲を最小限にして（Minimal Intervention）なるべく歯や歯の神経を抜かないこと、破折や咬合性外傷で歯を失わないよう力のコントロールを考えた一口腔単位での治療を行うこと、そして精度にこだわることです。

当院では、腕のいい歯科技工士（トリファンクショナルクリエイト・安藤幸治など）と連携して、精度にこだわった治療を行っております。

④　マイ・ハイジニスト

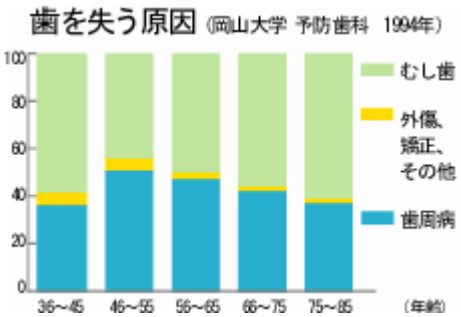
～担当歯科衛生士による定期健診～

治療が終わり、お口の中が健康になれば、それを末永く維持していくことが大切です。我々歯科医師は、“定期健診を続けていけば、虫歯や歯周病は予防できる” ことを知っています。ただしこの**“続けて”**は、患者さんが不定期に歯科医院を訪れるのではなく、歯科医師と歯科衛生士がその方のお口に合わせて健診期間（3～12ヶ月に1回）を決め、その方が自分の健康を維持するため、我々と一緒に定期健診を継続することを意味します。

定期健診の中心は歯石の除去、お口のクリーニング（PMTC）、フッ素塗布で、これらのプロフェッショナル・ケアは歯科衛生士が担当いたします。虫歯と歯周病は生活習慣病の側面を持っていますので、その方の担当歯科衛生士を決めておくことで、生活の変化に伴うちょっとしたお口の異常を見逃さず、安心感の高いプロフェッショナル・ケアを受けていただけると考えております。

⑤　疾患の予防と生活習慣の改善

20 世紀の歯科医療は、虫歯があれば削って詰め、歯周病が進行すれば抜いて義歯を作るといった問題解決型で、“早期発見・早期治療”が推奨されていました。しかし近年、歯を失う原因のほとんどである虫歯と歯周病は、細菌が原因の感染症であるとともに、生活習慣病の側面をもっていることが分かってきました。生活習慣病とは、食生活、運動習慣、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣が、その発症・進行に関与する疾患群と定義されており、生活習慣を改善することによって疾患のコントロールが可能です。すなわち、正しい歯磨きと歯石除去で細菌感染を防ぎ、規則正しい食生活や禁煙など生活習慣を改善することで、虫歯と歯周病は予防できると考えられているのです。



我々は、必要であれば治療を行いますが、それ以降、その方の歯を削りたくありませんし、抜きたくもありません。
大切なのは、歯を治療することではなく、疾患を生まないように管理していく（=生活習慣を改善し、疾患を予防する）ことです。21 世紀の歯科治療のキーワードは、“早期発見・長期管理（長期観察）”と言えるでしょう。
治療が終わり、その方自らが、“これからは健康な方がエエやん” と気付き、次の行動（=定期健診の継続）に移して頂ければ理想的です。定期健診の継続がその方の生活習慣に自然と浸透するよう、我々はいい距離を保ちながら囁き続けます。“健康で何でも食べられる方が、エエと思うなぁ～”と。

⑥ ヘルスプロモーション型歯科医療
～その方の QOL 向上を目指して～

ヘルスプロモーションとは、『人々が自らの健康をコントロールし、改善できるようにするプロセス』と訳されます。
これを歯科医療に当てはめると、我々は患者さんの健康観を聴き、その方にあった健康目標を設定し、その方自らがお口の健康維持に興味を持てるよう、そして自らが禁煙や丁寧な歯磨きといった規則正しい生活習慣を身に付けることができるようサポートするのです。主体はあくまで患者さんで、治療の目的も、歯を削って詰めることではなく、**その方の QOL 向上**だと考えます。
なお、QOL とは Quality of Life の略で、永田勝太郎先生によれば以下のように定義されるようです。
・よく食べれて、よく眠れて
・排泄に問題なく
・痛みがないか、たとえあっても苦痛にならず
・心理的に安定し、職場や学校・家庭といった社会環境においてその役割を十分に果たすことができ、
　生きがいを持って充実した日々を送れること

虫歯と歯周病は命に関わることがほとんどない慢性疾患ですが、歯が痛ければ、あるいは歯茎が腫れたら、毎日の食事が取り難く（=QOL の低下）治療が必要になります。その一方、例えば奥歯が 3 本なくても、よく食べて・よく眠れ・何も心配せず充実した生活を過ごせているならば、（歯科医師の立場から噛み合わせの問題は指摘しますが）、QOL は低下していないので、奥歯を作らなくていいかもしれません。

歯科医師としての治療技術はもちろん必要ですが、我々は穴を見つけて埋める “歯の修理屋さん”ではありません。
その方が何を求めて当院を受診されたのか/治療後にどうなりたいのかなど、その方の気持ちを聴き、その方の QOL が向上するよう、**その方に合った歯科医療を提供すること**にこだわっております。